

農村の活性化と都市農業の理解
促進に向けた
新たな協同をめざして



第9号

2017年7月発行

JA都市農村交流全国協議会・会報誌

クロス・カントリー

——CROSS-COUNTRY——



JA都市農村交流全国協議会

ご挨拶

JA都市農村交流全国協議会の会報誌「クロス・カンントリー」の第9号を発行する運びとなりました。今号は、3月に開催した「婚活支援セミナー」の内容と、29年度から始まった「農泊」についての情報をご紹介します。

JA都市農村交流全国協議会事務局

目次

1.協議会活動

- ①婚活支援セミナー（3月3日開催 実施概要）…………… 3
- ②婚活の現状について（セミナーを終えて）…………… 4
- ③企画のポイント（セミナー内容一部紹介）…………… 5

2.農泊推進

- ①農泊について…………… 6-7
- ②シンポジウムのご案内…………… 8

3.事例紹介

- 訪日外国人向け食農グリーンツーリズム
（農林中央金庫・農協観光・ABCクッキングスタジオ・リクルートライフスタイル）…………… 9

4.協議会研修会・セミナー・助成金制度のご案内

- ①平成29年度研修会・セミナー一覧…………… 10
- ②助成金制度について…………… 11

クロス・カンントリー（CROSS-COUNTRY）とは

本誌のタイトル「クロス・カンントリー」は、創刊号で募集し、会員様からいただいた応募作品です。愛称は「クロカン」。
命名の趣旨は、単語そのままが良いです。カンントリーは田舎をイメージすることが多いのではないのでしょうか。または、母国や故郷がイメージできる言葉でもあり、国産農産物や地産地消、地域食文化と馴染みやすい言葉です。
そのカンントリーを縦横無尽に結びつけ、人の交流、ものの交流を有益に繋げることを意味しました。本来は、オリンピック種目にもあるように、アップダウンある野山を一步一步踏みしめて進むことであり、農山漁村風景そのものをさしています。

平成28年度 JA都市農村交流全国協議会特別研修として、3月3日「婚活支援セミナー」が、東京・秋葉原のNツアービルにおいて行われました。全国から、約40名が参加し、JAグループ内でも関心が高まる後継者問題を見据えた「婚活」について、事例の紹介や情報の共有化、JAとしての対応の仕方などについて研修が行われました。

① 協議会活動報告

事務局と農協観光より、少子化や人口減少などの社会問題や、JAが直面している婚姻率の低下や後継者不足など、全体像の解説と今後の取組みについての課題が提起されました。

② JA実践事例報告

「都市型パーティー形式での婚活イベント」 JA千葉みらい 組合員課 塩田 諒 氏

三年前から計8回、パーティー形式で企画したイベントの様子を紹介いただきながら、開催時期、開催曜日、食事内容、ゲーム、集客方法、事前セミナーなどの課題、工夫について報告していただきました。

「季節ごと年4回の婚活支援活動」 JA全農あおもり 営農指導課 長尾和朋 氏

婚活支援に取り組むきっかけ、季節ごとの年4回の取組み、事前セミナーの開催、青森県内女性を対象としたイベント、県外女性を対象とした1泊2日のツアー、イベントとツアーの違い・展望などを報告していただきました。

③ 業界取組事例報告

基調講演Ⅰ「交際を育てるための基本と具体例」 株式会社パートナーエージェント マネージャー 干場かをり 氏

男性イベント参加者に対する、事前のレクチャーを中心に、清潔感や当日のファッションなど具体例を交えてお話していただきました。また、ワークショップ形式で、参加者の自己紹介を例に楽しく学ばせていただきました。

基調講演Ⅱ「異業種から見た婚活のアイデア」 ニュートン&サンザグループ 人事総務部次長 松尾祥司 氏

関東を中心に飲食やパーティー会場などを展開する企業から見た交際の場の提供や進行についてご意見をいただきました。JAのオリジナリティを活かしながら意外性を付加するアイデアや司会の重要性などに注目が集まりました。

④ 全体討論：パネルディスカッション

「その他の実践例と目標設定について」 司会：株式会社農協観光 営業企画部 石井唯之 課長

講演をいただいた4名の方に、再度ご登壇いただき、参加JAの取組み例や課題等をお聞きしながら、婚活支援の方法についてディスカッションを深めました。後半は、イベントの着地点と、明確な目標設定をテーマに話し合われました。



パネリストは左から、干場かをり氏、松尾祥司氏、塩田諒氏、長尾和朋氏、司会の石井唯之課長。

⑤ 交流会

今回のセミナーを機会に、協同組合として、地域を越えての連携や情報交換の継続を約して研修会を終えた後、近くのパーティー会場に場所を移し、さらに距離を縮めた参加者同士の交流が実現しました。

婚活はJAのみならず、自治体、イベント会社、商工会などが、各組織単独または連携して、人口減少対策としても取り組みが盛んになっています。

開催される婚活イベントは大きく分けて、「パーティー型」と「体験型」の2パターンに整理されます。

パーティー型では、夜や昼の短時間の飲食主体の内容であり、女性も参加しやすく、アルコールありの会食中心で会話も弾み、カップルの成立数も体験型に比べて多い傾向のようです。初めての開催にも適しています。

体験型では、農業体験を通して実際の若手農業者の働く姿やその土地の魅力を都市部からの女性参加者に知ってもらいたい等の主催者の想いも強いようです。女性も結婚を真剣に考える方々の参加

が多い傾向にある一方で、日帰りや宿泊が伴い拘束時間が長くなるため、女性参加者が集まりにくいという課題もあります。

どちらにしても、一回のイベントで成果を出すことは難しく、参加男性の準備のための事前セミナー開催や、1回目はパーティー型、2回目は体験型等の年間複数回の計画的な実施は効果が表れています。

研修会参加者アンケートでは、「事例の発表」が大変参考になった、次回も他JAの取組発表を中心にプログラムして欲しい、という声が多くありました。実践者の悩みや試行錯誤した経緯を共有するためにも、12月に開催予定のセミナーに是非ご参加ください。

募集パンフレット例

素敵な出会い in CHIBA
ホテルレストランでの婚活パーティー！
JA千葉みらい管内在住の農業青年と交流しませんか？

開催日時：2017年7月15日(土) 17:00~20:00(受付16:30~)
開催場所：京成ホテルミラマレ・2F 『ディスカワー』 (京成線/千葉中央駅隣)

参加資格：20代~45歳までの独身女性限定
募集定員：15名様限定<<先着順>>
参加費：税込3,000円<<カード決済or コンビニ決済>> 素敵な出会いのチャンス！
※コンビニ決済は別途手数料が別途200円がかかります 農業に興味のある方大歓迎！
募集締切：2017年7月3日(月)まで
申込方法：農協観光ホームページ「JOINTly GREEN」または「コールセンター」よりお申込み下さい

当日の交流プログラム【予定】
①開会のご挨拶
②自己紹介(1対1のトークタイム)
③夕食:食事をとりながらのグループトーク
※男性参加者が生産した野菜を使った地産地消メニューの一部提供します
④フリータイム(気になる相手とのトークタイム)
⑤メッセージカードの記入
⑥カップル発表
⑦閉会のご挨拶

注意事項 当日は、運転免許証、保険証などによる本人確認が必要となります。また、参加人数は目安であり、当日の参加人数を確保するものではありません。交流プログラムは予定であり、予告なく変更の場合がございます。詳しくはJOINTly GREENのHP「婚活イベント」をチェック！
キャンセル 開催2日前のキャンセルからキャンセル料として参加費の半額に限り発生いたします。 http://green.jointly.hyakuren.org/

お申込み・お問合わせ：株式会社農協観光「Nツアーコールセンター」
TEL 0570-076-888
受付時間：平日9:00~19:00 土・日・祝祭日10:00~18:00 休業:年末年始

【イベント主催】千葉みらい農業協同組合 【企画協力】株式会社農協観光千葉支店

夏の青森は 出会いがいっぱい

恋の始期 TOMORI

2017 7/29(土) 出発
青森県農協会館 および JR新青森駅 発着

参加者募集 *独身女性*

恋する夏コン

婚活ツアーあおもり 2日間

お相手は青森県の 独身農業男子!! (25~49歳位)

青森で素敵な出会いを!!
青森の豊かな文化や味覚を 地元・農業男子とめぐる!!

2016年度 4回開催 18組の カップルが誕生しました!!

収穫体験や、BBQパーティで交流を深め 忘れられない最高の夏にしませんか?

イベント企画 JAグループ青森

● 当日プログラムの組み方

◆ 全員と話す方法（全ての参加者と最低1回は話す機会をつくる）

- ▷ 1対1トーク（回転寿司形式／男性が移動）で全員と話す
- ▷ 事前にプロフィールシート（自己紹介）を記入し、時間を短縮
- ▷ 1セット／会話3分+メモ1分程度

◆ 話しやすい環境づくり（流れを作り、会話を促す）

- ▷ 1対1の後は、グループトークで個々の緊張を和らげる
- ▷ テーブル移動は女性が動き、女性から話し掛ける流れとする
- ▷ テーマ設定（地元PR、生産品目等）し、男性が話しやすい環境とする
- ▷ 女性向けにご当地クイズを行い、男性がサポートする

◆ フリータイムの捉え方（不公平・不満要素をつくらない）

- ▷ フリータイムは適度な時間でもあるが、個々の性格が出やすい
- ▷ タバコ、スマホなど、孤立・無関心な参加者を避ける
- ▷ 特に男性同士、仲間内で話し込むなど、女性への印象も悪い

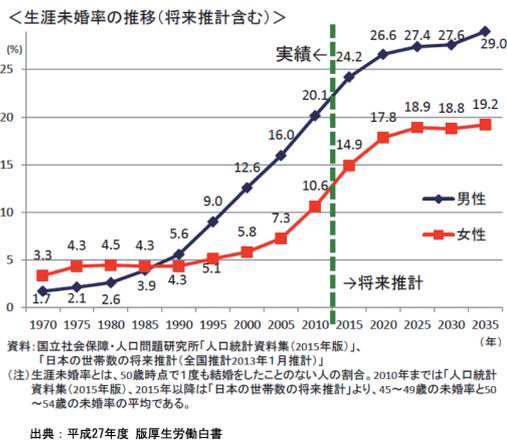
※ツアー形式の場合、バス車中での時間の活用、また、観光要素が強くなるように（目的は婚活）、参加者間の交流時間を多くつくる。

◆ 婚活イベントは消費者との接点の場でもある

カップル数、場の盛り上がり等の成果を期待される婚活イベントですが、一方では、都市部女性層との接点でもあります。地域農業、食や農、JAの取り組みなど、農業やJAをPRする絶好の場です。

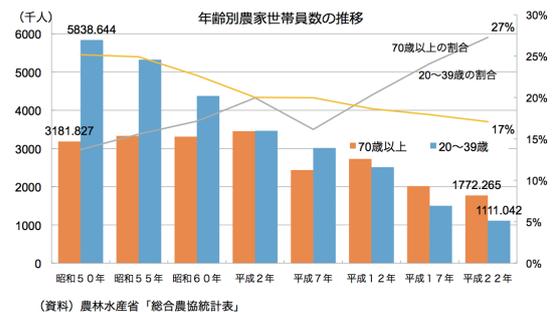
冒頭や結びの挨拶、男性参加者のPRタイムなどで、食や農をお伝えする場面を組み入れることもJAの婚活イベントでは効果的です。

生涯未婚率は、2020年には男性で約27%、女性で約18%、2035年には男性で約29%、女性で約19%になる見通し



農家世帯員の減少・高齢化！

全国的に農家世帯員の減少が進む一方で高齢化が急速に進展しており、JAとして農業後継者の育成が急がれています。



農山漁村に吹く新しい交流の風『農泊（農山漁村滞在型旅行）』の受入に取組みませんか

1 都市農村交流におけるこれまで

平成6年に「農山漁村余暇法」が制定されて以降、多くの農山漁村でグリーンツーリズムの受入体制を整備し、都市農村交流を通じて地域の活性化に取り組んできました。さらに平成20年度から始ま

った「子ども農山漁村交流プロジェクト」では、子どもたちへの教育効果と地域活性化を狙った取組が推進されてきました。そして今年度から始まった「農泊」です。

2 「農泊」とは

「農泊」とは日本ならではの伝統的な生活体験と農村地域の人々との交流を楽しむ「農山漁村滞在型旅行」。インバウンド（訪日外国人旅行）を含む観光客を農山漁村地域に呼び込み、そこで宿泊や体験交流、農林水産物の消費を通じて農山漁村の所得向上と活性化を図るものです。そのために

は、地域一丸となってビジネスとして実施できる体制づくりが求められています。「農泊」は農家民泊の略語と誤解されやすいですが、そうではなく農家民宿、古民家活用、旅館、ホテルなど多様な施設を利用した農山漁村での滞在を意味しています。

3 国の政策は

農林水産省では「農泊」を持続的な観光ビジネスとして推進し、農山漁村における所得の向上や雇用の増大を図るため、自立的に活動できる体制の構築、地域資源を観光コンテンツとして磨き上げる取組及び古民家等を活用した滞在施設や農林漁業体験実施等の整備を支援します。

具体的には、農泊に取組もうとする地域協議会や法人に対して、農山漁村振興交付金による支援策を新設し、去る平成29年3月までに初年度の公募が実施されました。

この結果、全国で160地域が採択を受け、今後実施計画の承認を得たうえで活動が始まります。さらに今年度は二次募集も追加され、目標年である2020年までには、農泊地域を500地域に増やすことを目指しています。

これに平行して全国的な推進策として、農泊への理解を深め取組地域を拡大させるためのシンポジウム、人材育成のセミナー、優良事例による横展開、海外へのプロモーション活動などが計画されています。

4 JAにとっては

転じてJAが農業振興や地域貢献に向き合うなかで「農泊」は、“食と農”でJAらしさを発揮しJAファーマーズマーケット等を基点に交流人口を高めれば、地域の活性化や農業者所得の増大にも繋がるものと考えられます。

JA都市農村交流全国協議会としましても国の農山漁村振興交付金の活用による実施体制づくりを推奨するとともに、既に取組んでいるJA、全国機関、等を構成員とした「JAグループ農泊の推進研究会」を設置し、農泊の推進と連動した交流活動の拡大を展開していきます。

1月に訪日外国人、2月には農泊推進をテーマとした研修会を開催し、会員の皆様と情報や事例を共有し、JAグループでの取組支援を進めるとともに、今後の取組を検討されている会員へは、概要の説明、取組内容や体制整備の相談など年間を通じて対応致します。

このように平成29年度は「農泊」について取組の内容と可能性を理解する年と位置付け準備を行い、30年度に農山漁村交付金事業等を活用した実践が拡大するよう計画しています。

5 シンポジウム開催

前述のシンポジウムは、「農泊」のことを広く知っていただくとともに、特に受入地域・JAの方々を目指すビジネス化のイメージをお伝えすることを目的とするものです。

この度9月までに開催する全国各地の案内は、

農泊シンポジウム専用ページに掲載されています。

会員JAにおかれましても、地域の実情に沿った農泊による地域活性化への取組みのヒントを得る機会です。皆様のご参加をお待ちしております。

農泊の取組による将来展望



※農泊イメージ図 (出展：農林水産省WEBサイト)

農泊に取り組む目的

	従来は	今後は
地域の目標	生きがいに重点	持続可能な産業へ
資金	公費依存	自立的な運営
体制	任意協議会（責任が不明確）	法人格を有する推進組織（責任の明確化）
受入組織機能	農家への宿泊の斡旋が中心	マーケティングに基づく多様なプログラム開発・販売・プロモーション・営業活動

シンポジウムは、以下の日程で開催されます。参加申込み、詳細は農林水産省、農政局ホームページをご覧ください。<https://ntour.jp/symposium/index.html>

(関東ブロックの開催案内は、関東の協議会会員の皆様には7月上旬に別途ご案内しています。)

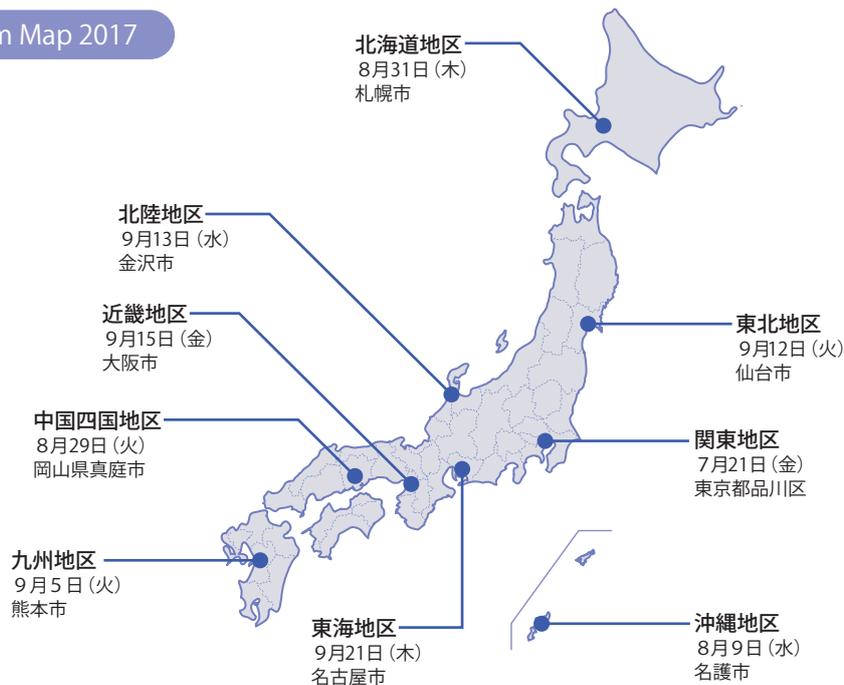
地区	日時	会場
北海道	8月31日(木)	札幌市・札幌エルプラザ
東北	9月12日(火)	仙台市・せんだいメディアテーク
関東	7月21日(金)	東京都品川区・きゅりあん(品川区総合区民会館)
北陸	9月13日(水)	金沢市・金沢商工会議所
東海	9月21日(木)	名古屋市・愛知県産業労働センターウインクあいち
近畿	9月15日(金)	大阪市・グランキューブ大阪
中国四国	8月29日(火)	岡山県真庭市・勝山文化センター
九州	9月5日(火)	熊本市・熊本地方合同庁舎
沖縄	8月9日(水)	名護市・名護市民会館

■お問い合わせ先

(一社)全国農協観光協会 事業部 地域交流支援課 担当：安田・鈴木・谷口

Tel:03-5297-0323

Symposium Map 2017



● 訪日外国人の取組み

農林中央金庫、農協観光、ABCクッキングスタジオ、リクルートライフスタイルの4社が連携し、海外の都市部から、インフルエンサーやメディア関係者、旅行会社の方を招き、JA直売所を交流拠点とし、食と農を基軸とした体験プログラム等の実施を通じて、日本食文化の発信、旅行客増加による地域活性化への貢献を目的とするインバウンドモニターツアーの取組を展開しています。

2016年4月から始まり、これまでに香港、シンガ

ポール、台湾から参加者を招請し、JA紀の里、JAならけん、JAグループ京都、JA富里市、JAきみつ、JA横浜、JAグループ北海道、JAバンク広島、JAバンクえひめ、JAおちいまばりにて受入れ、農産物の収穫や女性組織との交流、直売所での買い物などを体験し、SNS等で地域の魅力を発信しました。

今後も、兵庫県、熊本県、沖縄県などでの実施を予定しております。



直売所の地元スタッフとの交流



JA女性部との宇治茶体験



ぶどう収穫体験



キャベツの収穫体験



地域の直売所を見学・買い物



浴衣の着付け体験



日本茶のお茶淹れ体験



ブルーベリーの収穫体験



竹林で流しそうめんの昼食

● 動画でこれまでの取組みの様子をご紹介します。

関西エリア <https://www.youtube.com/watch?v=BQQg6aU6Ezw>

関東エリア <https://youtu.be/m88G0JRogUI>

北海道 <https://youtu.be/nY-MbLv5nug>

広島・愛媛 <https://youtu.be/GMBeQTmmrFA>

訪日外国人旅行者数は、2016年は2,400万人、2017年は1～4月までで900万人を突破しています。ゴールデンルートといわれる東京・富士山・京都・大阪エリアだけでなく、農山漁村へ

訪問する動きも見られ、各分野で様々な取組が行われています。本協議会でも来年1月に予定する研修会を中心に、情報の提供・共有を進めて参ります。

● 研修会・セミナーの開催について (予告)

協議会では29年度、以下の研修会・セミナーを開催予定です。会員の皆様には日時・会場等が決まり次第改めてご連絡いたしますので、是非ご参加ください。実践者の生の声と、多様な事例をご紹介し、JAグループでの取組の拡大が図れるよう情報の共有を進めていきます。

なお、年度当初の計画から開催時期が変わった研修があります。参加を予定されていましたが会員様にはご迷惑をおかけして誠に申し訳ありません。お詫びしますとともに、ご理解を賜りますようお願い申し上げます。

	研修会・セミナー名	内容	日程	会場
1	リスクマネジメント研修(基礎編)	農山漁村体験を実施する上での事前対策・安全管理について実践的な知識の習得	11月	東京都
2	婚活支援セミナー	全国の取組みの情報共有および知識・ノウハウの習得	12月	東京都
3	訪日外国人旅行者誘客研修会	全国の取組みの情報共有および知識・ノウハウの習得	1月	東京都
4	リスクマネジメント研修(上級編)	農山漁村体験を実施する上での事前対策・安全管理について実践的な知識の応用・経験談	1月	東京都
5	情報・意見交換集会	農泊による地域活性化に取り組むJAの事例、可能性について、会員間の交流及び情報共有化を目的とした集会	2月	東京都
6	農泊推進研修会	農泊の知識・取組具体策の習得	2月	東京都



2017年11月から2018年2月にかけて、上記の研修会やセミナーの開催を予定しております(写真はイメージです)

● 助成金制度について

協議会では、都市農村交流の取組みの活発化および質的向上を期して、会員活動に関する費用の一部助成を行います。予算上、上限30会員となりますので、早めの申請をお願いします。

● 助成概要

1. 助成対象団体：JA都市農村交流全国協議会の会員JAおよび会員都道府県中央会。但し、全国機関・賛助会員・学校教育機関会員は含みません。
 2. 助成対象事業：平成29年度の計画事業・活動、かつ平成30年3月までに実施の以下の事項。
 - ①新たな都市農村交流等の体験企画の取組みに関する貸切バス代金や募集チラシ・WEBページ制作費の一部（1申請上限3万円）
 - ②JA・中央会職員または組合員等を対象とした都市農村交流等の取組みに関する人材育成のための勉強会の講師謝金・旅費の一部（1申請上限3万円）
 - ③本協議会が認めたJAグループ主催の研修会・セミナーへの参加費の一部（一人当たり上限5千円、1研修会・セミナーにつき1会員2名まで）
- 詳しくは会員の皆様に郵送の要領をご確認願います。

WEBサイト「JOINTly GREEN」の活用について

都市と農村の交流を促進する取組でも、WEBでの受付対応が主流となってきています。協議会では、手軽に登録・掲載できるサイト「JOINTly GREEN」（ジョイントリーグリーン）をご用意しております。

JAまつり、農業体験、料理教室、食農教育イベント、観光農園、直売所催事、などの情報掲載が

無料で出来、有料サービスでは受付代行の機能もあります。

当サイトの利用にあたっては、本協議会の会員特典として、情報登録を事務局で代行しています。発信したい情報のチラシや要望などをメールやFAXで事務局宛に送っていただければ掲載します。どしどし情報をお寄せください。

JA交流事業 ネット掲載料無料！ ネット配信による広範囲集客システム
食と農の交流サイトが都市と農村を繋げる

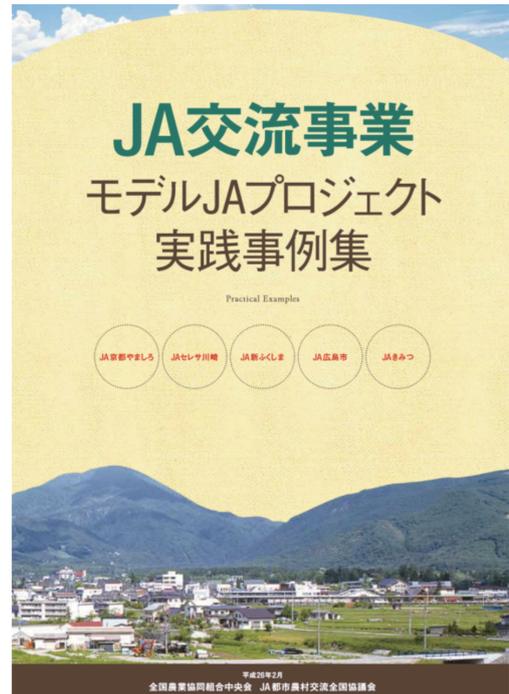
【 ジョイントリー 】
JOINTly
GREEN

募集イベントの集客増！
新規のお客様の集客！受付業務の効率化！
イベント情報発信サービス

<http://green.jointly.hyakuren.org/>

- 子ども農山漁村交流プロジェクト：受入地域協議会に対する調査報告（平成29年2月）
- 農林漁家民宿開業・運営の手引き（平成28年3月）
- 観光と連携したグリーンツーリズムの推進報告書（平成27年3月）
- JA交流事業：モデルJAプロジェクト実践事例集（平成26年2月）
- 子ども農山漁村交流プロジェクト：小学校とその受入地域の取り組み事例集（平成24年3月）
- 都市農村交流が結ぶ新たな絆：JA食農教育の実践とノウハウ（平成23年7月）

※配布をご希望の場合は事務局までお問い合わせください。



■ 会員資格・年会費

J A・都道府県中央会・連合会・本部… 2 万円
 J A グループ全国機関…………… 5 万円
 賛助会員…………… 5 万円

■ 会員数

J A74、中央会39、全国機関13、教育機関3 （2017年6月1日現在）

J A 都市農村交流全国協議会 事務局（J A 全中 J A 支援部 組合員・くらしの対策推進課）

H P : <http://ja-koryu.com/> TEL : 03 (6665) 6240 (代) 担当：工藤

*掲載内容に関するご意見・ご質問など、お気軽にお問い合わせ下さい。

